

《梦十夜》之第四夜 PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/146/2021_2022__E3_80_8A_E6_A2_A6_E5_8D_81_E5_c105_146232.htm い土の真中にみ台のようなものを据(す)えて、その周(まわり)に小さい床几(しょうぎ)がべてある。台は光りに光っている。片隅(かたすみ)には四角な膳(ぜん)を前に置いて(じい)さんが一人で酒をんでいる。肴(さかな)は煮しめらしい。さんは酒の加でなかなか赤くなっている。その上中つやつやして(しわ)と云うほどのものはどこにも当らない。ただ白い髯(ひげ)をありたけ生(は)やしているから年寄(としより)と云う事だけはわかる。自分は子供ながら、このさんの年はいくつなんだろうと思った。ところへの(かけひ)から手桶(ておけ)に水を汲(く)んで来た神(かみ)さんが、前垂(まえだれ)で手を拭(ふ)きながら、「御さんはいくつかね」といた。さんは(ほおば)った煮(にしめ)を(の)みんで、「いくつか忘れたよ」と澄ましていた。神さんは拭いた手を、いのに挟(はさ)んで横からさんのをて立っていた。さんは茶碗(ちゃわん)のような大きなもので酒をぐいとんで、そうして、ふうとい息を白い髯のから吹き出した。すると神さんが、「御さんの家(うち)はどこかね」といた。さんはい息を途中で切って、「(へそ)の奥だよ」と云った。神さんは手をいのに突(つっこ)んだまま、「どこへ行くかね」とまたいた。するとさんが、また茶碗のような大きなものでい酒をぐいとんで前のような息をふうと吹いて、「あっちへ行くよ」と云った。「真直(まっすぐ)かい」と神さんがいた、ふうと

吹いた息が、障子(しょうじ)を通り越して柳の下をけて、河原(かわら)の方へ真直(まっすぐ)に行った。さんが表へ出た。自分も後(あと)から出た。さんの腰に小さい瓢箪(ひょうたん)がぶら下がっている。肩から四角な箱を腋(わき)の下へるしている。浅黄(あさぎ)の股引(ももひき)を穿(は)いて、浅黄の袖(そでな)しを着ている。足袋(たび)だけが黄色い。何だか皮で作った足袋のようにえた。さんが真直に柳の下まで来た。柳の下に子供が三四人いた。さんは笑いながら腰から浅黄の手拭(てぬぐい)を出した。それを肝心(かんじんより)のようにく(よ)った。そうして地面(じびた)の真中に置いた。それから手拭の周(まわり)に、大きな丸いを描(か)いた。しまいに肩にかけた箱の中から真(しんちゅう)で(こし)らえた屋(あめや)の笛(ふえ)を出した。「今にその手拭が蛇(へび)になるから、ておろう。ておろう」と返(くりかえ)して云った。子供は一生命に手拭をていた。自分もていた。「ておろう、ておろう、好いか」と云いながらさんが笛を吹いて、の上をぐるぐるり出した。自分は手拭ばかりていた。けれども手拭はいっこうかなかった。さんは笛をびいびい吹いた。そうしての上を何遍もった。草鞋(わらじ)を爪立(つまだ)てるように、足をするように、手拭にをするように、った。怖(こわ)そうにもえた。面白そうにもあった。やがてさんは笛をぴたりとやめた。そうして、肩にけた箱の口をけて、手拭の首を、ちょいと撮(つま)んで、ぽっと放(ほう)り(こ)んだ。「こうしておくと、箱の中で蛇(へび)になる。今にせてやる。今にせてやる」と云いながら、さんが真直にき出した。柳の下をけて、い路を

真直に下りて行った。自分は蛇がたいから、い道をどこまでも追(つ)いて行った。さんは々「今になる」と云ったり、「蛇になる」と云ったりしていて行く。しまいには、「今になる、蛇になる、きつとなる、笛がる、」と(うた)いながら、とうとう河の岸へ出た。も舟もないから、ここで休んで箱の中の蛇をせるだろうと思っていると、さんはざぶざぶ河の中へ入(はい)り出した。始めは膝(ひざ)くらいの深さであったが、だんだん腰から、胸の方まで水に浸(つか)ってえなくなる。それでもさんは「深くなる、夜になる、真直になる」といながら、どこまでも真直にいて行った。そうして髯(ひげ)ももも巾(ずきん)もまるでえなくなってしまった。自分はさんが向岸(むこうぎし)へ上がったに、蛇をせるだろうと思って、(あし)のる所に立って、たった一人いつまでも待っていた。けれどもさんは、とうとう上がって来なかった。100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 www.100test.com